

## 倉吉市建設工事請負代金中間前金払制度実施要領

### 1 趣旨

この要領は、倉吉市建設工事執行規則（昭和 50 年倉吉市規則第 6 号。以下「規則」という。）第 60 条第 2 項に定める前金払（以下「中間前金払」という。）の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

### 2 対象工事

- (1) 土木建築に関する工事（土木建築に関する工事の設計及び調査並びに土木建築に関する工事の用に供することを目的とする機械類の製作を除く。以下同じ。）であって、原則として年度内完成工事に係るものとするが、繰越明許費に指定された経費による工事及び翌年度にわたって債務を負担することとした工事についても対象とする。
- (2) 1 件の契約について、同一年度内で規則第 65 条第 1 項の規定による部分払（5（2）に規定するものを除く。）を選択した工事にあつては、中間前金払の対象としない。

### 3 対象となる経費の範囲及び支出要件

公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和 27 年法律第 184 号）第 5 条の規定に基づき登録を受けた保証事業会社の保証に係る公共工事のうち、工事 1 件の請負代金の額が 100 万円以上の土木建築に関する工事であつて、以下の要件に該当するものに係る当該工事の材料費等に相当する額として必要な経費については、当該経費の 4 割を超えない範囲内で既にした前金払に追加して、当該経費の 2 割を超えない範囲内に限り前金払をすることができる。

- (1) 工期の 2 分の 1 を経過していること。
  - (2) 工程表により工期の 2 分の 1 を経過するまでに実施すべきものとされている当該工事に係る作業が行われていること。
  - (3) 既に行われた当該工事に係る作業に要する経費が請負代金の額の 2 分の 1（債務負担行為にあつては、出来高予定額の 2 分の 1）以上の額に相当するものであること。
- （注）当該工事の材料費等とは、地方自治法施行規則附則第 3 条第 1 項に規定する「当該工事の材料費、労務費、機械器具の賃貸料、機械購入費（当該工事において償却される割合に相当する額に限る。）動力費、支払運賃、修繕費、仮設費、労働者災害補償保険料及び保証料」を指す。

### 4 中間前金払の割合

請負代金の額の 10 分の 2 以内とする。ただし、中間前払金を支出した後の前払金の合

計額が請負代金の額の10分の6を超えてはならないものとする。

5 債務負担行為等に係る特例（2以上の会計年度にわたる継続事業に関する支払方法等）

- (1) 債務負担行為に係る契約分については、その年割額が当該年度内に支出できる見込みのものについて、当該年割額を対象として、中間前金払をすることができるものとする。
- (2) 中間前金払を選択した場合においても、債務負担行為に係る工事における各年度の出来高予定額（最終年度に係るものを除く。）に係る当該年度末の出来高に対する部分払及び繰越に係る工事における年度末の部分払については、当該年度の出来高に対して部分払をすることができる。

6 中間前金払の認定

- (1) 市長は、請負者から認定請求書（様式1）の提出により中間前金払に係る認定の請求があったときは、上記3に掲げる要件を確認するものとする。

なお、同3の(3)による作業経費の実績については、同(2)による工事实績の確認ができれば、明らかに請負代金の額の2分の1を下回る場合を除き、確認できたものとみなす。この場合の留意点は以下のとおりである。

ア 進ちょくが金額面でも2分の1以上であることを確認するために必要な資料は、建設工事請負契約書第11条に基づき工事履行報告書（様式2）を提出させることとし、その認定は、認定請求書の作成時点における現在日出来高に請負代金額を乗じて得た額により行うことができるものとする。

イ 工事現場に搬入された検査済みの工事材料があるときは、これに相応する請負代金相当額を出来高に加算して進ちょく額を認定することができるものとする。

（注） 本項は、出来高の数値に疑義がある場合に、当該数値の根拠となる資料の提示等を求める発注者としての権利を排除するものではない。

ウ 設計図書の変更指示により、新規工種等の追加指示が行われていれば、新規工種等の追加に係る契約書の変更がされていなくても、当該新規工種等に係る出来高を認定対象とする出来高に含めることができるものとする。

（注1） 新規工種等に係る出来高を認定対象とする出来高に含めることは、請負者が出来高計算の際に用いた単価、数量等を発注者として確認したことを意味するものではないので契約書の変更に係る協議等において留意すること。また、出来高の計算に当たっては、以下の式を適用することとする。

$$\text{出来高} = (B + C) / A$$

A：中間前払金の支払請求時点における請負契約額

B：中間前払金の支払請求時点における契約内容に対応した出来高

C：当該部分に係る契約書の変更が未実施の部分（変更指示文書発出済のもの）

のに限る。)

(注2) 工事履行報告書において契約済部分の出来高(上式のB/A項に当たる数値)のみ記述している場合で、当該契約済部分の出来高が50パーセントに満たないが、上式による出来高( $(B + C) / A$ )であれば50パーセント以上となるときは、上式による出来高を適切に付記させること。

(2) 市長は、当該認定の請求があったときは、請負者が提出する資料について内容の不備若しくは提出の遅滞があったとき、又は連休期間前その他特別の事情がある場合を除き、当該請求を受けた日から遅くとも7日以内に認定結果を通知するものとする。

## 7 認定調書等及び支払

(1) 認定権者は、上記6の認定による結果、中間前金払が妥当であると認めるときは、認定調書(様式3)を請求者に交付することとする。

(2) 契約担当課は、請負者から前払金保証契約書の寄託を受ける場合は、当該証書原本及び副本を提出させることとし、原本は契約担当課が保管することとする。また、当該証書の副本は、支出命令書とともに最終的には会計管理者が保管することとする。

(3) 契約書第34条第3項の規定に基づき中間前払金支払請求書(様式4)により中間前払金の支払請求があったときは、当該支払請求を受けた日から14日以内に当該支払をすることとしているが、現下の景気対策の必要性を考慮し、その迅速化に努めることとする。

## 8 中間前金払と部分払の選択

1件の契約について、同一年度内では、中間前金払と部分払のいずれかを選択させることとし、当該年度においていずれか一方を実施した後の変更は認めないものとする。

## 附 則

この要領は、平成23年4月1日から施行する。

(様式1)

## 中間前金払認定請求書

工 事 名	
工 事 場 所	
工 期	
請 負 代 金 額	
契 約 年 月 日	
<p>上記の工事について、工事請負契約書第34条第3項の規定により、中間前金払の認定を請求します。</p> <p>年 月 日</p> <p>発注者 倉吉市長</p> <p>受注者 住所</p> <p>商号又は名称</p> <p>代表者職氏名 印</p>	

(様式2)

## 工事履行報告書

工 事 名				
工 期	年 月 日 から 年 月 日 まで			
日 付	年 月 日			
月 別	予定工程 %	工程変更後 ( ( ) 書き)	実施工程 %	備考
(記事欄)				

現場 代理人	主任 (監理) 技術者

(備考) 必要に応じて適宜項目を加除して使用するものとする。

(様式3)

### 中間前金払認定調書

工 事 名	
工 事 場 所	
工 期	
請 負 代 金 額	
摘 要	
<p>上記の工事について、その進ちよくを調査したところ、中間前金払をすることができる要件を具備していることを認定します。</p> <p>年 月 日</p> <p>受注者 住所 商号又は名称 代表者職氏名 様</p> <p>発注者 倉吉市長 印</p>	

(様式4)

## 工事請負代金中間前払請求書

一金

円也

次の工事に係る中間前払金として上記のとおり請求します。

年 月 日

受注者 住所

商号又は名称

代表者職氏名

印

発注者 倉吉市長

工 事 名	
工 事 場 所	
工 期	年 月 日 から 年 月 日 まで
請 負 代 金 額	金 円
受 領 済 前 払 金 額	金 円

備考 金額は、算用数字で記載すること。